

新免光比呂  
(しんめんみつひろ)

民族文化研究部

# 奥様、お手をどうぞ

ど

この国では作法とか敬語とかいうものが忘れられて久しい。もし、まだあるとすれば、どこかの町のお稽古事の集まりのなかだけではないかと思われるほどだ。ところがヨーロッパの東の果てに過去の作法から生まれた言葉が日常生活のなかに、まつたりと息いている地域がある。

男性が女性に挨拶をするとき、優雅に腰をかがめ、そっと両手で女性の手を取つて口づけをする。そのとき、「Sarut māna」(サルート・マーナ、だが私は、いつもサラバ・ナと書きこえた)と

いう。意味は、お手にキスを、である。これは、男性が女性に挨拶するときにだけ用いられる。ふつうは、手にキスをするしぐさより、頬へのキ

スの場合が多いのだが。

挨拶である以上、この身体行為は習慣化して

いて、その意味を問いたい人はいない。だが、この「Sarut māna」という挨拶は、外国人である筆者がルーマニア滞在中、なかなか身につける」とができない言葉であった。

これが難しかったのか、「J'んにちは」と当たるルーマニア語の'Buna ziua'、またフランス語のBonjourやイタリア語のBuon giornoと同じである。たとえ、それが煩へのキスや抱擁をともなへても心理的な抵抗はない。だが、「Sarut māna」にはちよと違う語感がある。あの優雅

なしぐさが脳裏に焼きついていて、照れくさい気分を生んでしまうのだ。時代錯誤も甚だしい社交儀礼の名残りではないか。ときおり、優雅に女性の手をとり、サラマーナとのたまう、しゃれた紳士をみかけるのでなおさらである。

ここで疑問が生じる。なぜ、東南ヨーロッパのルーマニアで、ヨーロッパ中世の封建的礼儀作法が今でも見られるのか。

その答えは、ルーマニアとヨーロッパとの密接な歴史的関係のなかに見出される。現在はルーマニアの1地方であるトランシルヴァニア地方は、近世初頭からハプスブルク帝国の支配下にあった。

アでも、男性に対する女性の立場がじつに強い！

思春期の男女関係はいうに及ばず、家庭生活に

おいても女性の主導権は明らかである。マッチョ

な男性中心主義など、ヨーロッパを探しても見つけられない。もちろん、財界とともに男性が

指導的地位を占めるのだが、その内情は興味深く、文化的影響を強く受けた。さらに独立後には新しく国王をドイツから呼び寄せた。これ



男女のかかわりはさまざま。踊りにエロスが表現されることもあるが、ルーマニアの踊りでは、男性のアクロバティックな動きと女性の控えめな動きが目立つ

こ

バのルーマニアで、ヨーロッパ中世の封建的礼儀作法が今でも見られるのか。

その答えは、ルーマニアとヨーロッパとの密接な歴史的関係のなかに見出される。現在はルーマニアの1地方であるトランシルヴァニア地方は、近世初頭からハブスブルク帝国の支配下にあった。

アでも、男性に対する女性の立場がじつに強い！

思春期の男女関係はいうに及ばず、家庭生活に

おいても女性の主導権は明らかである。マッチョ

な男性中心主義など、ヨーロッパを探しても見つけられない。もちろん、財界とともに男性が

指導的地位を占めるのだが、その内情は興味深く、